

# 高校生の友人関係の状況が文化祭および体育祭への 消極的な参加態度に与える影響

—都立高校生を対象とした質問紙調査データの分析から—

秋田大学 鈴木 翔

【キーワード】高校生, 友人関係, 文化祭, 体育祭, 消極的な参加態度

## 1 問題の所在と先行研究の検討

本稿の目的は、どのような友人関係の状況にある高校生が、学校行事に消極的な参加態度を示すのかを質問紙調査データの分析から実証的に明らかにし、その分析結果をもとに、学校行事が抱える課題を考察することである。

現行の学習指導要領によれば、学校行事の目標は、「望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活や社会生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる」ことであるとされている<sup>(1)</sup>。ここで示されている「人間関係」「集団」「連帯感」「協力」などのキーワードから読み取れるように、学校行事は人とのつながりを重視する教育活動だということに特徴がある。もちろん、実際に学校行事を行うときに子どもたちに明示的に主目標として設定されるのは、演技や作品の成功といった行事の形態に即したものであるが、多くの学校行事は、人間関係の調整という副次的な目標を持ち合わせているため、仮に子どもたちの努力の甲斐なく主目標が達成されなかった場合においても、人間関係の調整という副次的な目標さえ達成されていれば、学校行事は成功したという認識が成り立つという見解が示されている(山田 2012)<sup>(2)</sup>。だとすれば、学校行事とは、主目標を集団の構成員で共有することにより、人間関係の調整という副次的目標の達成を目指す教育活動だと考えることができそうだ。

では、学校行事への取り組みと集団の人間関係の関連性について、これまでの研究はどのようなことを明らかにしてきたのだろうか。学校行事に関する実証的研究の蓄積はそれほど多くないものの(河本 2012)<sup>(3)</sup>、文化祭<sup>(4)</sup>や体育祭<sup>(5)</sup>を中心とした、いくつかの研究によって学校行事の教育効果が検証されてきた。これらの研究を概観すると、文化祭や体育祭への取り組みはおおむね集団の人間関係へポジティブな影響を及ぼすことが明らかにされてきたといえる。

たとえば、文化祭への参加をとおして、集団内における他者との相互理解が深まったという知見や(樽木・石隈 2006)<sup>(6)</sup>、体育祭への参加が、自己効力感の向上や学校適応を促進したという知見が明らかにされているほか(横山・古田 2012)<sup>(7)</sup>、学校行事当日の活動だけではなく、文化祭や体育祭の準備を行っている時間にも、集団の親密性が高まっていくことも明らかにされている(樽木・石隈 2006)<sup>(8)</sup>。また、学校行事を通して、友人関係が良好になれば、学校内だけではなく、放課後や休日に友人と遊ぶようになるなど(長谷川 2011)<sup>(9)</sup>、集団内の交友関係の拡大や友人関係の充実感の両面へとポジティブな影響を及ぼすことが明らかにされてきている。

しかし、これらの研究にも、いくつかの課題があると考えられる。その一つは、これまでの研究において、そもそもどのような友人関係の状況にある生徒が、学校行事へ参加しやすいのかという点が十分に明らかにされてはこなかったということである。前述したように、学校行事は集

団の人間関係の調整を目的とした教育活動であるが、その活動形態もまた集団で行うことになるため、一緒に活動することになる集団にそもそも適応できていない生徒は、学校行事を一生懸命頑張りたいという気持ちがあったとしても、そのモチベーションを維持できない可能性がある。また、文化祭や体育祭をはじめとする多くの学校行事には競争的要素があるため<sup>(10)</sup>、受賞やその目的に応じた達成感を共有できるような友人が集団内にいない場合には、学校行事に真剣に打ち込むことが難しくなることが想定できる。

実際、これまでの研究においても、集団に適応していないと教師に認識されている生徒は、学校行事に参加しづらい状況にあり、そのことが学校行事を行う上での一つの課題になっていることが報告されている(高 2002)<sup>(11)</sup>。もちろん、集団内で学校行事に関わる諸活動に打ち込むうちに、集団の親密性が高まり、生徒が集団内に溶け込めるようになったり(樽木 2005)<sup>(12)</sup>、学校行事がなんらかのきっかけとなり、集団内への適応を促したとする報告もあるが(相原 2011)<sup>(13)</sup>、課題を克服した生徒がどのような友人関係の状況にあったのかということに関してはつぶさに検討されてこなかった。学校行事の教育効果を最大限発揮するためには、普段の関係性作りが必要不可欠であるのはもちろんだが(河本 2014)<sup>(14)</sup>、現状では具体的にどのような生徒に手立てを講じればよいのかという見通しが立てづらいという問題を抱えているということである。

よって、この問題を克服するためには、どのような友人関係の状況にある生徒が、学校行事に消極的な参加態度を示しやすいのかということや、友人関係の状況が学校行事への参加態度に及ぼす影響が学校行事の種類によって異なるのかといった検証が必要であるが、この点に着目した研究は見当たらない。以上より、本稿では、どのような友人関係の状況にある生徒が、学校行事に消極的な参加態度を示すのかを質問紙調査データの分析から実証的に明らかにし、その上であらためて学校行事が抱える課題を考察していきたい。

## 2 分析対象と分析枠組みの設定

前節で設定した課題を明らかにするために、本稿では高校生の文化祭と体育祭を対象として分析を行っていくこととする。数ある学校行事の中から、文化祭と体育祭を分析対象として設定した理由は、当該学校行事が、集団活動としての特徴を持つ学校行事であること(山田・藤田 1996)<sup>(15)</sup>、多くの学校が年間の行事予定に組み込んでいること、そしてこの2つの学校行事が生徒にとっても記憶に残りやすい印象的な学校行事であり(高瀬 2007)<sup>(16)</sup>、彼らの主観ではあるがポジティブな影響を及ぼしたことがこれまでの研究で指摘されていることの3点である(鹽谷・岡崎・入江ほか 1998)<sup>(17)</sup>。そして、高校生を対象とする理由は、高校段階の文化祭や体育祭が、生徒の自発的・自主的な活動を尊重することが基本的方針となっていることから(中村・越田 2014)<sup>(18)</sup>、教師が生徒の交友関係に介入する機会が他の学校段階に比べて少なく、彼らの既存の友人関係の状況が学校行事への参加態度へ強く影響していることが想定されるからである。

続いて、本稿の分析枠組みを設定する。本稿では、一貫して友人関係の状況が文化祭と体育祭という2つの学校行事の消極的な参加態度へ及ぼす影響を分析していくが、その際、男女差を考慮した分析を行っていく。その理由は、これまでの高校生の交友関係を対象とした研究において、男女で友人関係の構造や、その意味づけが異なることが指摘されてきており(和田 1993など)<sup>(19)</sup>、友人関係と学校行事への参加意欲の関連性を問う本稿においても、男女差は重要な分析軸となり

うと考えられたからである。また、学校行事に参加したことで得た感情が男女で異なることや(横山・古田 2012)<sup>(20)</sup>、学校行事に限らないが、様々な感動体験の経験率が男女で異なることなどがこれまでの研究で指摘されてきており(橋本・小倉 2002)<sup>(21)</sup>、これらの知見を鑑みても、男女差を考慮した分析は必要不可欠であると考えられる。

続いて、分析枠組みについて説明する。本稿では、学校行事への消極的な参加態度を従属変数として分析を行っていくに当たり、友人関係の状況を独立変数に投入した分析モデルと、そこで用いた独立変数に加えて、学校行事を楽しみにしているかどうかを表す変数を投入した分析モデルの2つの分析モデルの結果を比較して考察を行っていく。この手続きを踏むことにより、友人関係の状況がいかなるメカニズムで学校行事への消極的な参加態度を規定しているのかを動的に把握できると考えられるからである。すなわち、仮に特定の友人関係の状況が学校行事への消極的な参加態度を規定していることが分析の結果から明らかになったとして、そのことが友人関係の状況が直接的に学校行事への消極的な参加態度に影響を及ぼしていることを示しているのか、それとも特定の友人関係の状況にあることが学校行事へ参加したいと思えるようなモチベーションにつながらず、それゆえ学校行事への消極的な参加態度を示しているのかということとを区別して分析することが可能になるということである。もし分析の結果、特定の友人関係の状況が、学校行事が楽しみではないという意識を媒介して、学校行事への消極的な参加態度を規定しているということが明らかになれば、特定の友人関係の状況にある生徒がいる集団が学校行事に参加する以前に何らかの手立てを講じる必要性が導出されたと考えることができる。

### 3 使用するデータの概要と変数の設定

本稿の分析に用いるデータは、東京大学教育学部比較教育社会学コースが、都立高校9校の普通科に通う高校2年生を対象に2007年10月から12月にかけて実施した「都立高校生の生活・行動・意識に関する調査」である。対象校は、学習研究社の『都立に入る！〈2008年入試用〉』を参照して、大学進学率(3分類)、旧学区(3分類)のバランスを考慮しながら選定された<sup>(22)</sup>。主な調査項目は、高校生活の実態や自己認識に関するものであり、学校を通じての自記式調査によって実施された。最終的な有効回収数は、1,548名であり、そのうち在学している高校で文化祭および体育祭が行われていると回答した1,504名に限定して分析を行う。なお、具体的な調査の概要は、東京大学教育学部比較教育社会学コース・Benesse 教育研究開発センター編(2009)に記載されている<sup>(23)</sup>。

当該データを本稿の分析に用いることのメリットは3つある。まず1つ目のメリットは、学校行事への参加態度と意識に関する項目が文化祭と体育祭で別個に用意されていることである。これにより、同一の高校生を分析対象にして、文化祭と体育祭への参加態度の規定要因の差異を検証することが可能になる。2つ目のメリットは、実際の学校行事への参加態度と、そもそも学校行事を楽しみにしているかどうかという意識に関する質問項目を区別して別個に設定していることである。よって、分析対象者の学校行事への実際の参加態度と学校行事を楽しみにできる状況にある生徒であるかどうかということとを区別した分析が可能になり、学校行事が楽しみな状況にないから、実際にも参加しないといったような動的な観点から考察を行うことができる。この点は、本稿の分析において、大きなメリットになると考えられる。3つ目のメリットは、友人関

表1. 分析に使用する変数の設定

文化祭消極的参加ダミー	活動への参加の積極性を問う設問「文化祭や学芸発表会」(4件法)に対し、「まったく積極的でない」と回答=1, それ以外に回答=0
体育祭消極的参加ダミー	活動への参加の積極性を問う設問「体育祭(運動会)」(4件法)に対し、「まったく積極的でない」と回答=1, それ以外に回答=0
進学校在学ダミー	四年制大学への進学率が60%以上の高校に在学=1, それ以外の高校に在学=0
進路多様校在学ダミー	四年制大学への進学率が30%未満の高校に在学=1, それ以外の高校に在学=0
校内成績	校内成績の自己認識を問う設問において、「下のほう」と回答=1, …, 「中くらい」と回答=3, …, 「上のほう」と回答=5
実技得意ダミー	「音楽・美術・体育の中で得意なものがある」(4件法)という設問に対し、「とてもあてはまる」「まああてはまる」と回答=1, それ以外に回答=0
生徒会役員経験ダミー	中学・高校時に生徒会の役員を経験=1, 経験していない=0
クラス委員経験ダミー	中学・高校時にクラス委員を経験=1, 経験していない=0
運動部所属ダミー	運動部に所属=1, それ以外=0
文化部所属ダミー	文化部に所属=1, それ以外=0
通塾ダミー	現在、塾や予備校に通っている=1, 通っていない=0
アルバイトダミー	現在、定期的にアルバイトをしている=1, していない=0
クラス内友人数	クラスの親しい友人数を問う設問に対して、「いない」と回答=0, 「1~3人」と回答=2, 「4~6人」と回答=5, 「7~9人」と回答=8, 「10~12人」と回答=11, 「13人~」と回答=14
向上心友人ありダミー	特定の友人の有無を問う設問「向上心をかき立ててくれる友だち」(4件法)に対し、「たくさんいる」「まあいる」と回答=1, それ以外に回答=0
ライバル友人ありダミー	特定の友人の有無を問う設問「勉強やスポーツでライバルになる友だち」(4件法)に対し、「たくさんいる」「まあいる」と回答=1, それ以外に回答=0
文化祭楽しみではないダミー	「文化祭や学芸発表会を楽しみにしている」(4件法)という設問に対し、「まったくあてはまらない」と回答=1, それ以外に回答=0
体育祭楽しみではないダミー	「体育祭(運動会)を楽しみにしている」(4件法)という設問に対し、「まったくあてはまらない」と回答=1, それ以外に回答=0

係の状況を問う質問項目が複数設定されていることである。本調査では、クラスの友人数はもちろんのこと、向上心をかき立ててくれる友だちや勉強やスポーツでライバルになる友だちの有無を問う質問項目が設定されており、これまでの研究では見落とされがちであった、多角的な友人関係の状況を検証することが可能になると考えられる<sup>(24)</sup>。もちろん、調査時期が2007年とやや古いことから、分析結果を解釈する際にはやや注意が必要だが、以上の3点のメリットを兼ね備えている調査は管見の限りなく、高校生の友人関係と学校行事への参加の消極性をめぐる関係性を検証するためのデータとしては問題ないと考えられることができる。

続いて、本稿の分析に用いる変数の説明を行う。まず、本稿の分析の従属変数として、「文化祭消極的参加ダミー」と「体育祭消極的参加ダミー」を設定した。この変数は、「文化祭や学芸発表会」と「体育祭(運動会)」への積極性を問う質問項目(4件法)に対し、「まったく積極的ではない」と回答した生徒を1, それ以外に回答した生徒を0としてダミー変数化して設定した。そして、友人関係の状況を表す独立変数としては、「クラス内友人数」「向上心友人ありダミー」「ライバル友人ありダミー」を設定した。「クラス内友人数」については、回答の中央値を変数として設定し、「向上心友人ありダミー」と「ライバル友人ありダミー」については、4件法で問うた質問項目に対し、肯定的な回答をした生徒を1, 否定的な回答をした生徒を0としてダミー変数として設定した。そのほか、統制変数として、「進学校在学ダミー」「進路多様校在学ダミー」といった在学している学校の文化的要素を表す変数や<sup>(25)</sup>、「校内成績」や「実技得意ダミー」といった生徒の能力を問う変数<sup>(26)</sup>、「生徒会役員経験ダミー」「クラス委員経験ダミー」「運動部所属ダミー」「文化部所属ダミー」などの校内での公的な役割や所属を表す変数<sup>(27)</sup>、そして「通塾ダミー」

表2. 分析に使用する変数の記述統計量

	性別	有効度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
文化祭消極的参加ダミー	男子	756	0.000	1.000	0.130	
	女子	748	0.000	1.000	0.060	
体育祭消極的参加ダミー	男子	755	0.000	1.000	0.127	
	女子	743	0.000	1.000	0.083	
進学校在学ダミー	男子	783	0.000	1.000	0.396	
	女子	758	0.000	1.000	0.389	
進路多様校在学ダミー	男子	783	0.000	1.000	0.404	
	女子	758	0.000	1.000	0.412	
校内成績	男子	778	1.000	5.000	2.738	1.152
	女子	756	1.000	5.000	2.611	1.159
実技得意ダミー	男子	780	0.000	1.000	0.621	
	女子	756	0.000	1.000	0.689	
生徒会役員経験ダミー	男子	776	0.000	1.000	0.244	
	女子	746	0.000	1.000	0.160	
クラス委員経験ダミー	男子	773	0.000	1.000	0.468	
	女子	747	0.000	1.000	0.469	
運動部所属ダミー	男子	776	0.000	1.000	0.567	
	女子	754	0.000	1.000	0.326	
文化部所属ダミー	男子	776	0.000	1.000	0.144	
	女子	754	0.000	1.000	0.292	
通塾ダミー	男子	731	0.000	1.000	0.242	
	女子	700	0.000	1.000	0.231	
アルバイトダミー	男子	729	0.000	1.000	0.283	
	女子	686	0.000	1.000	0.394	
クラス内友人数	男子	763	0.000	14.000	6.295	4.281
	女子	748	0.000	14.000	5.753	3.967
向上心友人ありダミー	男子	764	0.000	1.000	0.610	
	女子	745	0.000	1.000	0.650	
ライバル友人ありダミー	男子	765	0.000	1.000	0.591	
	女子	745	0.000	1.000	0.538	
文化祭楽しみではないダミー	男子	765	0.000	1.000	0.173	
	女子	750	0.000	1.000	0.105	
体育祭楽しみではないダミー	男子	760	0.000	1.000	0.199	
	女子	745	0.000	1.000	0.166	

「アルバイトダミー」といった校外への活動へのコミットメントを表す変数を設定した<sup>(28)</sup>。また、文化祭と体育祭を楽しんでいるかどうかを表す変数としては、「文化祭楽しみにしていないダミー」と「体育祭楽しみにしていないダミー」を設定した。この変数は、「文化祭や学芸発表会」と「体育祭(運動会)」を楽しみにしているかどうかを問う質問項目(4件法)に対し、「まったくあてはまらない」と回答した生徒を1、それ以外に回答した生徒を0としてダミー変数化して設定した。なお、分析に使用する変数の詳細な説明は表1、記述統計量は表2に示している。

#### 4 分析結果

##### (1) 友人関係が文化祭の消極的参加態度に与える影響

はじめに、友人関係の状況が文化祭への消極的な参加態度に与える影響を分析する。文化祭への消極的な参加態度を従属変数とし、友人関係の状況を独立変数として、ロジスティック回帰分析を行ったのが、表3と表4である。

男子の分析結果を表した表3のモデル2を確認すると、男子では「クラス内友人数」が「文化祭への消極的参加態度」へ負の影響を与えていることがわかる。つまり、クラス内の友人数が少

表3. 男子の文化祭への消極的な参加態度の規定要因(ロジスティック回帰分析)

	モデル1		モデル2		モデル3				
	B	Exp(B)	B	Exp(B)	B	Exp(B)			
進学校在学ダミー (基準: 中堅校)	-0.160	0.852	-0.139	0.871	0.201	1.222			
進路多様校在学ダミー	0.135	1.144	0.222	1.248	0.450	1.569			
校内成績	-0.119	0.888	-0.102	0.903	-0.078	0.925			
実技得意ダミー	-0.954	0.385	***	-0.852	0.426	**	-0.507	0.602	
生徒会役員経験ダミー	-0.275	0.759		-0.261	0.770		-0.094	0.910	
クラス委員経験ダミー	-0.558	0.573	*	-0.422	0.656		-0.546	0.580	
運動部所属ダミー	-0.591	0.554	*	-0.506	0.603		-0.470	0.625	
文化部所属ダミー (基準: 部活動に所属していない)	-0.785	0.456		-0.839	0.432	*	-0.573	0.564	
通塾ダミー	0.302	1.353		0.250	1.285		0.364	1.440	
アルバイトダミー	0.040	1.041		-0.022	0.978		-0.015	0.985	
クラス内友人数				-0.098	0.907	**	-0.056	0.946	
向上心友人ありダミー				-0.613	0.542		-0.442	0.643	
ライバル友人ありダミー				0.392	1.480		0.406	1.501	
文化祭楽しみではないダミー (定数)	-0.517	0.596		-0.079	0.924		-1.608	0.200	***
有効度数		660			660			660	
Nagelkerke 決定係数		0.119			0.153			0.300	
モデル適合度		$p=0.000$			$p=0.000$			$p=0.000$	

\*\*\*  $p < 0.001$  \*\*  $p < 0.01$  \*  $p < 0.05$

表4. 女子の文化祭への消極的な参加態度の規定要因(ロジスティック回帰分析)

	モデル1		モデル2		モデル3				
	B	Exp(B)	B	Exp(B)	B	Exp(B)			
進学校在学ダミー (基準: 中堅校)	-0.747	0.474	-0.581	0.560	0.281	1.325			
進路多様校在学ダミー	0.122	1.129	0.036	1.037	0.427	1.532			
校内成績	-0.454	0.635	**	-0.420	0.657	*	-0.312	0.732	
実技得意ダミー	-0.733	0.481	*	-0.547	0.578		0.147	1.158	
生徒会役員経験ダミー	-0.240	0.787		-0.272	0.762		-0.049	0.952	
クラス委員経験ダミー	-0.059	0.942		-0.051	0.951		0.275	1.316	
運動部所属ダミー	-1.944	0.143	*	-1.769	0.170	*	-1.624	0.197	*
文化部所属ダミー (基準: 部活動に所属していない)	-0.283	0.754		-0.160	0.852		-0.077	1.080	
通塾ダミー	-0.531	0.588		-0.555	0.574		-1.229	0.293	
アルバイトダミー	-0.060	0.942		-0.034	0.967		0.031	1.031	
クラス内友人数				-0.097	0.908		-0.001	0.999	
向上心友人ありダミー				-0.904	0.405	*	-0.921	0.398	
ライバル友人ありダミー				0.128	1.137		0.283	1.327	
文化祭楽しみではないダミー (定数)	-0.584	0.558		0.009	1.009		-2.994	0.050	**
有効度数		647			647			647	
Nagelkerke 決定係数		0.166			0.203			0.442	
モデル適合度		$p=0.000$			$p=0.000$			$p=0.000$	

\*\*\*  $p < 0.001$  \*\*  $p < 0.01$  \*  $p < 0.05$

ない生徒ほど、文化祭へ消極的な参加を示すことが明らかになったということである。そして、「文化祭楽しみではないダミー」を独立変数に投入したモデル3を確認すると、「文化祭楽しみではないダミー」が正に有意な影響を与えており、モデル2で有意な影響を与えていた「クラス内友人数」の効果が減少していることが読み取れる( $p = n.s.$ )。つまり、男子は、クラスで友人数が少ないことが文化祭を楽しむにできない要因として機能しており、それを媒介して実際に文化祭

でも消極的な参加態度を示しているというメカニズムが明らかになった。

続いて、女子の分析を行う。女子の分析結果を示した表4のモデル2を確認すると、女子の場合は、「向上心友人ありダミー」が「文化祭への消極的参加態度」へ負の影響を与えていることが確認できる。つまり、向上心をかき立てられる友人がいない生徒ほど、文化祭へ消極的な参加を示すことが明らかになったということである。そして、「文化祭楽しみではないダミー」を独立変数に投入したモデル3を確認すると、「文化祭楽しみではないダミー」が正に有意な影響を与えており、モデル2で有意な影響を与えていた「向上心友人ありダミー」の効果が減少していることが読み取れる( $p=n.s.$ )。よって、女子は、向上心をかき立てられる友人がいないことが、文化祭を楽しむにできない要因として機能しており、それを媒介して実際に文化祭でも消極的な参加態度を示すことが明らかになった。

以上の分析結果から、男女ともに友人関係の状況が文化祭への消極的な参加態度に影響を与えているものの、その友人関係のあり方が異なったメカニズムで消極的な参加態度へ影響していることが実証的に示された。

## (2) 友人関係が体育祭の消極的参加態度に与える影響

次に、友人関係の状況が体育祭への消極的な参加態度に与える影響を分析する。体育祭への消極的な参加態度を従属変数とし、友人関係の状況を独立変数として、ロジスティック回帰分析を行ったのが、表5と表6である。

男子の結果を示した表5のモデル2、3を確認すると、友人関係の状況は、体育祭への消極的参加態度へ影響を与えていないことが読み取れる。またモデル3では、「体育祭楽しみではないダミー」以外の有意な影響を及ぼしている変数は、モデル1~3ですべて同一であることが確認できる。すなわち男子においては、実技教科が得意ではないことや、クラス委員を経験していないこと、

表5. 男子の体育祭への消極的な参加態度の規定要因(ロジスティック回帰分析)

	モデル1		モデル2		モデル3				
	B	Exp(B)	B	Exp(B)	B	Exp(B)			
進学校在学ダミー (基準：中堅校)	-0.211	0.810	-0.200	0.818	0.007	1.007			
進路多様校在学ダミー	-0.415	0.660	-0.372	0.689	-0.236	0.790			
校内成績	-0.120	0.887	-0.110	0.896	-0.099	0.905			
実技得意ダミー	-1.133	0.322	***	-1.048	0.351	***	-0.873	0.418	**
生徒会役員経験ダミー	-0.748	0.473		-0.731	0.481		-0.755	0.470	
クラス委員経験ダミー	-0.688	0.502	*	-0.613	0.542	*	-0.654	0.520	*
運動部所属ダミー	-1.175	0.309	***	-1.114	0.328	***	-1.030	0.357	**
文化部所属ダミー (基準：部活動に所属していない)	-0.095	0.910		-0.122	0.885		0.196	1.216	
通塾ダミー	-0.144	0.866		-0.188	0.829		-0.191	0.826	
アルバイトダミー	0.058	1.060		0.008	1.008		-0.084	0.919	
クラス内友人数				-0.052	0.949		0.014	1.014	
向上心友人ありダミー				-0.441	0.644		-0.376	0.686	
ライバル友人ありダミー				0.178	1.195		0.464	1.590	
文化祭楽しみではないダミー (定数)	0.095	1.099		0.402	1.494		2.544	12.730	***
有効度数		657		657		657			
Nagelkerke 決定係数		0.196		0.208		0.398			
モデル適合度		$p=0.000$		$p=0.000$		$p=0.000$			

\*\*\* $p<0.001$  \*\* $p<0.01$  \* $p<0.05$

表6. 女子の体育祭への消極的な参加態度の規定要因(ロジスティック回帰分析)

	モデル1		モデル2		モデル3				
	B	Exp(B)	B	Exp(B)	B	Exp(B)			
進学校在学ダミー (基準: 中堅校)	-0.268	0.765	-0.083	0.921	0.247	1.280			
進路多様校在学ダミー	-0.247	0.781	-0.342	0.711	-0.198	0.820			
校内成績	-0.173	0.841	-0.105	0.900	0.059	1.061			
実技得意ダミー	-0.318	0.728	-0.122	0.885	0.513	1.670			
生徒会役員経験ダミー	-0.519	0.595	-0.545	0.580	-0.595	0.552			
クラス委員経験ダミー	-0.264	0.768	-0.215	0.806	-0.173	0.841			
運動部所属ダミー	-3.180	0.042	**	-3.022	0.049	**	-2.647	0.071	*
文化部所属ダミー (基準: 部活動に所属していない)	0.123	1.131	0.203	1.224	0.135	1.145			
通塾ダミー	-0.411	0.663	-0.379	0.685	-0.539	0.583			
アルバイトダミー	0.139	1.149	0.176	1.192	0.801	2.229			
クラス内友人数			-0.061	0.941	0.028	1.028			
向上心友人ありダミー			-0.764	0.466	*	-0.800	0.449		
ライバル友人ありダミー			-0.258	0.773		0.182	1.200		
文化祭楽しみではないダミー					3.605	36.788	***		
(定数)	-1.068	0.344	-0.649	0.523	-4.287	0.014	***		
有効度数		643		643		643			
Nagelkerke 決定係数		0.150		0.184		0.481			
モデル適合度		$p=0.000$		$p=0.000$		$p=0.000$			

\*\*\* $p<0.001$  \*\* $p<0.01$  \* $p<0.05$

運動部に所属していないことなどが体育祭への消極的な参加態度に影響を与えているだけであり、友人関係の状況は体育祭への消極的な参加態度に影響を与えていないことが確認された。

続いて、女子の分析を行う。同様に女子の分析結果を示した表6のモデル2を確認すると、女子の場合には、「向上心友人ありダミー」が「体育祭への消極的参加態度」へ負の影響を与えていることがわかる。つまり、向上心をかき立てられる友人がいない生徒ほど、体育祭へ消極的な参加態度を示す傾向にあることが明らかになった。そして、「体育祭楽しみではないダミー」を独立変数に投入したモデル3を確認すると、「体育祭楽しみではないダミー」が正に有意な影響を与えており、モデル2で有意な影響を与えていた「向上心友人ありダミー」の効果が減少していることが読み取れる( $p=n.s.$ )。よって、女子が体育祭に消極的な参加態度を示すのは、向上心をかき立ててくれる友人がいないことによって、体育祭が楽しみでなくなり、それを媒介して実際に体育祭でも消極的な参加態度を示すというメカニズムが明らかになった。

以上の分析結果から、男子の場合には、友人関係の状況は体育祭への消極的な参加態度には影響を与えておらず、女子の場合には、特定の友人関係の状況が体育祭を楽しみにできないことを媒介して体育祭への消極的な参加態度に影響を与えていることが実証的に示された。

## 5 知見の整理と考察

本稿では、男女差と文化祭／体育祭の違いに着目しながら、どのような友人関係の状況にある高校生が、学校行事に消極的な参加態度を示すのかという課題の分析を行ってきた。その結果、得られた知見は、以下の3点である。

第一に、男子は、クラスで友人数が少ないことが、文化祭を楽しみにできないことへつながっており、それを媒介して実際の文化祭に消極的な参加態度を示している。第二に、女子は、向上



心をかき立てられるような友人がいないことが、文化祭を楽しみにできないことへつながっており、それを媒介して実際の文化祭にも消極的な参加態度を示している。第三に、男子は、友人関係の状況が体育祭への消極的な参加態度にはつながっていないが、女子は、向上心をかき立てられるような友人がいないことが、体育祭を楽しみにできないことへつながっており、それを媒介して実際の体育祭でも消極的な参加態度を示している。

本稿で明らかになった以上の3つの知見を受けて、あらためて学校行事が抱える課題を考察していこう。まず、先行研究において、学校行事への参加が人間関係上の教育効果をもたらすことが明らかにされてきていたが、本稿の分析から、学校行事へ参加しづらい傾向にある生徒の友人関係の状況は男女で異なることや、行事の種類によっても異なることが示されたといえる。つまり、より多くの生徒に学校行事を積極的に取り組んでほしいと願うならば、クラス内友人数が少ない男子には、文化祭に向けた諸活動が行われる以前から、友人関係を広げるような手立てを学校行事以外の場面で設定したり、クラス内の友人が少なかったとしても、文化祭が楽しみになるような行事の活動内容に変化させたりする必要がある。同様に、女子の場合は、たとえ友人数が多く、問題がないように見受けられたとしても、女子生徒の友人関係の内実をつぶさに把握した上で、お互いを高め合えるような友人を作るためのきっかけを用意したり、あるいは、向上心をかき立ててくれるような友人がいなかったとしても、文化祭や体育祭が楽しみになるような行事の活動内容に変化させたりすることが必要になるだろう。現実的に考えれば、前者の手立てには限界があるものの、後者のように既存の友人関係に依存しない形で行事の活動内容を変化させることはある程度可能だと考えられる。

しかし、学校行事の活動内容を大幅に変化させることにより、先行研究で明らかにされてきた伝統的な活動内容による学校行事のポジティブな効果も失われてしまう可能性があることには留意が必要である。どこまで活動を変化させれば、ポジティブな教育効果が失われてしまうのかという点は、今後検証すべき重要な課題であると考えられる。もしも、今後その点について、具体的な分析をするならば、各学校の多様な活動形態や取り組み、役割等を具体的に把握したうえで、どの生徒がそれぞれの活動にどれだけ関わったのかということがわかる調査を計画し、そのデータを分析することにより、学校行事のどのような活動の側面が特定の友人関係の状況にある生徒の積極的な参加を阻んでいるのかということ、どのような活動形態や取り組みに教育効果があるのかということと同時に検証することが可能になると考えられる。

以上のように、本稿の分析結果には、検討の余地が多くある。しかし、そもそもどのような友人関係の状況にある生徒が学校行事へ消極的な参加態度を示すのかという点に着目して分析を行った研究は、これまでほとんど行われてこなかったことを考えると、本稿の知見は、まだ研究の蓄積が少ない高等学校の学校行事において、一定の貢献をなしたと主張しうる。これらの残された課題に応えるための新たな調査を実施・分析することで、さらなる検証を進めていきたい。

【付記】本研究はJSPS 科研費16H05923の助成を受けたものです。

【注】

- (1) 文部科学省, 2009, 『高等学校学習指導要領解説特別活動編』。
- (2) 山田真紀, 2012, 「学校行事で、集団のなかで、貢献できる行動力を育てよう」『児童心理』66巻10号, pp.846-50号。

- (3) 河本愛子, 2013, 「日本の学校行事に関する教育心理学的展望——その教育的機能および発達の意義を問う」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第52巻, pp.375-83.
- (4) 文化祭は学校段階や各学校の裁量により名称が異なるが, ここでは「学習発表会」と呼ばれる学校行事なども文化祭に含むことにする。
- (5) 注6と同様, 体育祭もまた, 学校段階や各学校の裁量により名称は異なるが, ここでは「運動会」と呼ばれる学校行事なども体育祭に含むことにする。
- (6) 樽木靖夫・石隈利紀, 2006, 「文化祭での学級劇における中学生の小集団の体験の効果——小集団の発展, 分業的協力, 担任教師の援助介入に焦点をあてて」『教育心理学研究』第54巻, pp.101-11.
- (7) 横山理沙・古田真司, 2012, 「体育大会が中学生の自己効力感や学校適応感に及ぼす影響についての検討——自己肯定感の違いに着目して」『東海学校保健研究』第36巻, pp.71-80.
- (8) 樽木・石隈(2006)前掲.
- (9) 長谷川祐介, 2011, 「友人関係に及ぼす学校行事の影響に関する分析の試み」『大分大学教育福祉科学部附属教育実践総合センター紀要』No.29, pp.91-104.
- (10) 山田真紀, 2000, 「競争的行事における活動の編成形態とその機能」『日本特別活動学会紀要』第8号, pp.46-58.
- (11) 高賢一, 2002, 「学校行事に参加できない生徒の対応に関する事例研究」『日本特別活動学会紀要』第10号, pp.67-72.
- (12) 樽木靖夫, 2005, 「中学生の仲間集団どうしのつき合い方を援助する学校行事の活用」『教育心理学年報』44巻, pp.156-65.
- (13) 相原孝之, 2011, 「『お徳感』と『安心感』を保証して, 行事への参加の仕方を工夫する」『月刊学校教育相談』第25巻第7号, pp.24-6.
- (14) 河本愛子, 2014, 「中学・高校における学校行事体験の発達の意義——大学生の回顧的意味づけに着目して」『発達心理学研究』25巻4号, pp.453-65.
- (15) 山田真紀・藤田英典, 1996, 「学校行事における活動の編成形態——活動の公開性/非公開性と競争性/共同性に注目して」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第36巻, pp.161-74.
- (16) 高瀬博, 2007, 「中学・高校時における『特別活動(主に学校行事)』に対する大学生の意識について」『関東学園大学紀要』第15集, pp.1-16.
- (17) 鹽谷健・岡崎勝博・入江友生ほか, 1998, 「学校行事が生徒の人格形成に及ぼす影響について(4) 集計・課題」『筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告』第38集, pp.207-21.
- (18) 中村豊・越田佳孝, 2014, 「文化祭への取り組みに非協力的な生徒(高校生)」『月刊生徒指導』44巻10号, pp.46-9.
- (19) 和田実, 1993, 「同性友人関係——その性および性役割タイプによる差異」『社会心理学研究』第8巻第2号, pp.67-75.
- (20) 横山・古田(2012)前掲.
- (21) 橋本巖・小倉文佳, 2002, 「青年期における感動経験と共感性の関係」『愛媛大学教育学部紀要』第I部, 教育科学, 第48巻第2号, pp.143-57.
- (22) 学習研究社編, 2007, 『都立に入る!〈2008年入試用〉』学習研究社.
- (23) 東京大学教育学部比較教育社会学コース・Benesse 教育研究開発センター, 2009, 『都立高校生の生活・行動・意識に関する調査報告書』ベネッセコーポレーション.
- (24) なお本稿で分析に用いる質問項目には, 友人関係をあらわすワーディングとして「友人」と「友だち」という2つの表記が混在している。そのため, 本稿の分析では, 回答者によって異なると想定される「友人」観および「友だち」観の違いは考慮されていない。この点は, 本稿の分析の限界である。
- (25) 本稿が進学校/進路多様校など高校の進学率を統制した分析を行う理由は, これまでの研究において, 生徒の価値観が学校文化の影響を強く受けることが指摘されているからである。この点に着目した研究としては, 武内・苅谷・浜名(1982)などがある。武内清・苅谷剛彦・浜名陽子, 1982, 「学校社会学の動向」『教育社会学研究』第37集, pp.67-82.
- (26) 佐々木(2008)や樽木(2013)などにより, 学校行事をはじめとする特別活動は, アカデミックな活動だけでなく, 他の活動が得意な子ども達の活躍の場になっているという指摘があるため, 校内成績と実技得意ダミーを統制変数として投入することにした。佐々木正昭, 2008, 「特別活動の予防的開発的生徒指導としての役割についての考察」『日本特別活動学会紀要』第16号, pp.15-20. 樽木靖夫, 2013, 『学校行事の学校心理学』ナカニシヤ出版.
- (27) 学校行事は, 生徒会や各種委員会が企画に関わることが多いことや, 所属する部活動によって, 参加の度合いが異なることが想定されたため, 統制変数として分析に投入した。
- (28) 西谷(2009)は, 学校行事への参加が在学する高校へのスクールアイデンティティを高める活動として機能することを指摘しているが, 通塾している生徒やアルバイトをしている生徒は, 他のコミュニティに帰属意識をもっており, 在学する高校への帰属意識が低い可能性があると考えたため, 「通塾ダミー」と「アルバイトダミー」を統制変数として分析に投入した。西谷博文, 2009, 「高等学校における特徴的な学校行事とスクールアイデンティティ」『日本特別活動学会紀要』第17号, pp.59-65.